

〔資料3〕「キョウリュウの話」意味段落へのまとめ

意味段落 形式段落	まとまりの数																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
児	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
童	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中心話題	地球の主人公である	種類のこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのあらいキ	キョウリュウのあらいキ	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	キョウリュウのこと	

ったのが⑧の段落である。⑧を①から⑦までのまとめの段落と考えた者が三名いる。また、⑨の段落へつながら問題提起の条件の段落と考えた者が五名いる。これらの児童は、全体構成を五つのまとめりととらえており、「六つ」という指示を与えて

いれば、⑧の段落についてもつと別な角度から見直していたにちがいない。⑧の段落は、地球上にキョウリュウがあらわれたころから、地球の主人公になるまでのことを述べているから、一つのまとめりになるという話し合いの結果、⑧を意味段落と

- 考えた。そうすることにより、「変わったきたキョウリュウ」という中心話題とも合うことが確認された。
- 〈第一次検証授業実践の反省〉
- 読み取りに重要だと言われている重要語句(キーワード)を、「○○のこと」と中心話題として書くことにより、自分たちの力で見つけ出しながら学習をすすめてきた。この段落では何のことが分かるか、中心として述べていることは何か、などの視点により、段落の中心話題が次第に焦点化されたものになってきた。
- この説明文教材に入る前に、言語単元「言葉について考えよう」(こそあど言葉・つなぎ言葉)を学習したのが、段落相互の関係をとらえるのに大きな力になっていた。
- 説明文特有の表現を理解させることも必要である。問いかけと答え、簡条書き的な書き方などに気付くことは、構成や内容の理解に役に立つ。
- 第二次検証授業
- 〈実践、ガラスの利用〉
- 教材について(略)
- 教師の働きかけ
- 本単元の目標は「段落どうしのまとめりに気を付けて内容を確かに読み取る」である。そこで、第一次検証授業の反省をもとに、次のような視点で働きかけをした。
- 段落ごとに何について述べているのか、一つ一つの段落の中心話題を確かにおさえさせる。
- 段落冒頭の接続語は、③の段落の「また」一つである。したがって、段落冒頭の接続語を手がかりにして段落相互の関係をつかむことは、むずかしい。一つ一つの段落の中心話題、要点をもとに、内容を確かに把握させる。
- ⑩の段落、⑪の段落の書き出しの文から、さらに内容がつけ加えられていくことの予想のもとに、大きなまとめりとしてとらえさせる。
- 中心話題をとらえる
- 「ガラスで服ができるなんて……。」読み終わった時の児童のつぶやきである。全く予想もしなかった内容への驚きである。この発見を大事にしながら各段落ごとに、中心話題をとらえていった。
- 要点をよくとらえる(資料4)
- 中心話題をもとにして要点をまとめていった。その際、主語をきちんと入れること、指示語は指示内容に変えること、例と考えられる事柄は省くことを指示して、まとめさせた。要点として書かれた内容にはなっていない。
- 段落相互の関係をまとめる(資料5)
- 文章全体はいくつにまとまるかを考えさせた結果、次のようになった。
- 四つのまとめり——一人
- 五つのまとめり——十九人
- 六つのまとめり——四人
- 無答——二人
- 段落冒頭の接続語「また」でつな